

世界初デジタル最新技術で原寸大に再現

至宝『日本の絵巻物』完全復刻シリーズ

監修 秋山光和

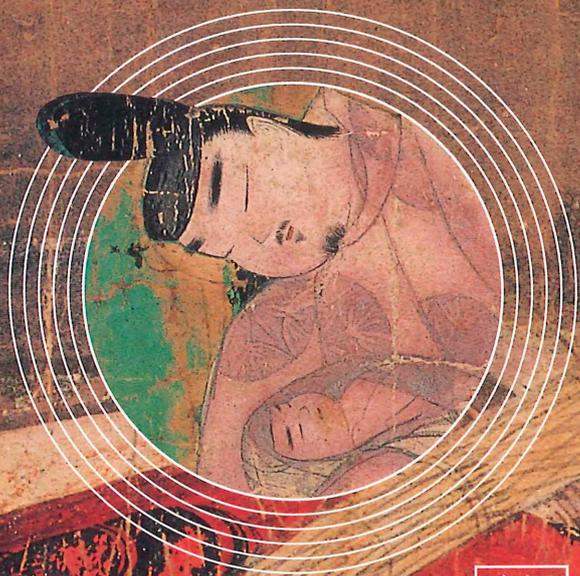
徳川美術館 五島美術館

国宝

# 源氏物語繪巻

第四回配本

全四巻セット





絵巻物は日本が生んだ特有の美術様式で、詞書と絵によって展開するその独特の世界は、美術史的にも文学史的にも宗教史的にも風俗・生活史的にも貴重な存在です。

絵巻物はまた、絵と文章による複合芸術であり、時間性とストーリー性をもった絵画です。それは、今日隆盛をみているマンガ、アニメーションの源流ともいべきもので、絵巻物はきわめて現代的な興味の対象でもあります。とりわけ「異時同図法」「吹抜屋台」といった表現方法は、マンガやアニメーションの表現法の先駆をなし、コンピューターグラフィックスの映像表現にも影響を与え、世界的にも注目を集めているところです。

絵巻物は、美術館、神社仏閣、大学、個人等において貴重な美術品として厳重に保管されており、特別陳列を避けばほとんど公開・展示されることがありません。特別陳列も海外において開催されることが多く、国内ではその機会に乏しいため、さまざまな観点から鑑賞されるべき絵巻物にふれることは事実上ないに等しいのです。学術用として、鑑賞用として、より身近に、手にとれる原寸大の複製品あるいは複製品が大いに求められるところです。

戦前から一部の名作絵巻物の複製・復刻はなされていますが、モノクロ図版や縮小版が多く、学問研究や美術鑑賞に耐えるものではありませんでした。また、多くの場合、冊子本のかたちで紹介されており、左手で開き、右手で巻きながらストーリー展開を追い、かつ鑑賞するという、絵巻物本来の醍醐味が失われておりました。

このたび、最新のデジタル技術を駆使して豊かな絵巻物の世界を再現する、日本の絵巻物・原寸大復刻シリーズを刊行する運びとなりました。筆遣いの息吹さえも感じさせる高いクオリティの復刻と、巻物を開き広げ巻き込みながら鑑賞できる巻子本により、絵巻物の神髄を伝えることができると確信しております。

二十一世紀を迎えた今日こそ、日本独自の文化遺産である絵巻物を完全に復刻する好機と考え、新しい文化事業として、当社の全力を挙げて刊行してまいります。

## 六大特色

### 代表的絵巻物を網羅

美術ならびに歴史の分野において専門書や研究書、あるいは大学・短大の教科書・教材において掲載度の高い国宝クラスの絵巻物を選んで復刻。

### 高品質な印刷

最新のデジタル印刷技術と日本の伝統的な職人芸の融合により、内容豊かな絵巻物の世界を忠実に再現。

### 優れた印刷効果と耐光性

バガス紙（中性紙）と耐光性の強いトナーを使用することにより、従来にないインクのテクスチャと抜群の色彩効果を実現。半恒久的な保存が可能。

### 「貼りつなぎ」なし

世界初の絵巻物用画像つなぎソフト（トッパン・フォームズと三洋電機との共同開発）により、何メートルにもわたる絵巻物を一枚の用紙に同時印刷することが可能に。実物にもない視覚効果と機能性を実現。

### 実物と同じ巻子本

原物を忠実に再現しているので、左手で巻き広げ、右手で巻き込みながら鑑賞する絵巻物本来の楽しみ方を実現。

### 詳細な解説書付き

それぞれの美術館の学芸員、専門の美術史家による解説。歴史資料文献としての価値も多大。

# 監修者のことば



財団法人 徳川黎明会会長  
徳川美術館館長  
**徳川義宣**

源氏物語繪巻は物語が完成した寛弘元年（一〇〇四）頃から百二十年ほどのちに作られた繪巻と考へられ、現存繪巻中で最古の作品である。五十四帖全帖にわたって一帖につき一乃至三場面を選んで繪を描き、それに対応する物語の部分を抜粋して、高位能書の公卿たちが分担して流麗な筆を揮った。詞書の料紙は約二十二センチ方形の用紙を染め、大小の金銀の切箔・野毛・砂子を夢幻の繪の様に撒き下繪を添へ、恰かも装飾経や調度歌集本の様な贅を盡くしてをり、繪巻の詞書料紙として他に例がないほど美麗である。その料紙を数枚書き継いだ文字は、読み易さよりも眼に映る形の美しさを主眼にしてゐるので聊か読みにくい。

繪は墨描き・著色・文様・描き起こし等と工程別に分れて、幾人かの官廷女房たちの協同作業によつて描かれた「作り繪」であり、主として屋内で進行する物語を説明的に描くのに都合のよい「吹抜屋台」と「逆遠近法」が用ゐられ、高貴な登場人物の顔貌は、全てまったく没個性で無表情、ただ「優雅さと静寂さ」の印象のみを與へる「引目鉤鼻」の手法によつてゐる。「伴大納言繪詞」「信貴山縁起」或は「鳥獸人物戲畫卷」の様に連続して展開する躍動感、誇張された身体の動きや表情を追ふ楽しさではなく、繪一圖は横幅小は約三十九センチ、大は約四十八センチと拡げて熟視するに最適な寸法、静止畫像として描かれてゐる。

當初は百餘圖、全二十巻本として作られたと推定されるが、江戸時代には既に多くが失はれ、錯簡も多い三巻（十五圖詞五十紙）が尾張徳川家に、一卷（四圖詞十五紙）が阿波蜂須賀家に傳へられるのみとなつてゐた。

尾張徳川家本三巻は昭和七年、保存と鑑賞の便のために卷子装を解いて額面に装に改められ、蜂須賀本もそれに倣つて額面装とされ、今日は五島美術館に所蔵されてゐる。それらが本来の卷子装に復原され、一人ひとりの手で繕き、一人で凝つと眺め入ることが出来る様になるのは、この繪巻の神髄、極楽浄土に繋がる「優雅静寂」の境地を再び味はへることになる。



財団法人 五島美術館館長  
**木下久一郎**

五島美術館の「源氏物語繪巻」は、美術館の開館時に、美術館の創立者五島慶太が購入の話をまとめたもので、周知の通り、尾張徳川家に伝来した三巻と一連の平安時代後期に描かれた現存最古の「源氏物語」の繪巻である。江戸時代には、阿波の蜂須賀家に伝来し、明治時代に入り、古川躬行・蜷川式胤・柏木貨一郎・益田孝（鈍翁）などのコレクターを経てゐるが、この一巻がいつ、どういう理由で尾張徳川家のものと分かれたのかを明らかにすることはできない。しかし、徳川美術館蔵の「柏木」「横笛」の場面に続く、同一の巻物であつたことは、諸研究から明らかである。

ところで、徳川美術館と五島美術館は、開館の十年毎の記念の年が五年ずれていることから、互いに記念の年に、両館が所蔵する「源氏物語繪巻」の特別展を開催することとしている。たがいの十年に一回は、五年に一回、東京か名古屋で、現存の四巻を鑑賞できることになる。これは、所有者にとっては展示間隔といい、展示場所といい、保存公開の両面からみても、大変に都合が良い。愛好家にとつても、定期的に一堂に鑑賞でき、五年を楽しみとしてゐることであろう。しかし、研究者や愛好家がそうした本物を鑑賞する合間は、印刷物や複製を利用するしかない。複製や最近の新しい技術を駆使した資料で楽しむのも一興であろう。今回の複製もそうしたひとつであり、保存のため額装された現在の一面毎の体裁ではなく、連続した巻物として、しかも貼つぎのない紙への印刷が可能となり、繪巻物のオリジナルな働き、鑑賞が可能となつてゐる。かつて徳川美術館本（第三十七帖）に続いてゐた五島美術館本（第三十八帖）を巻物状と比較できるなど、実物公開の隙間を十分に補うものとなることであろう。

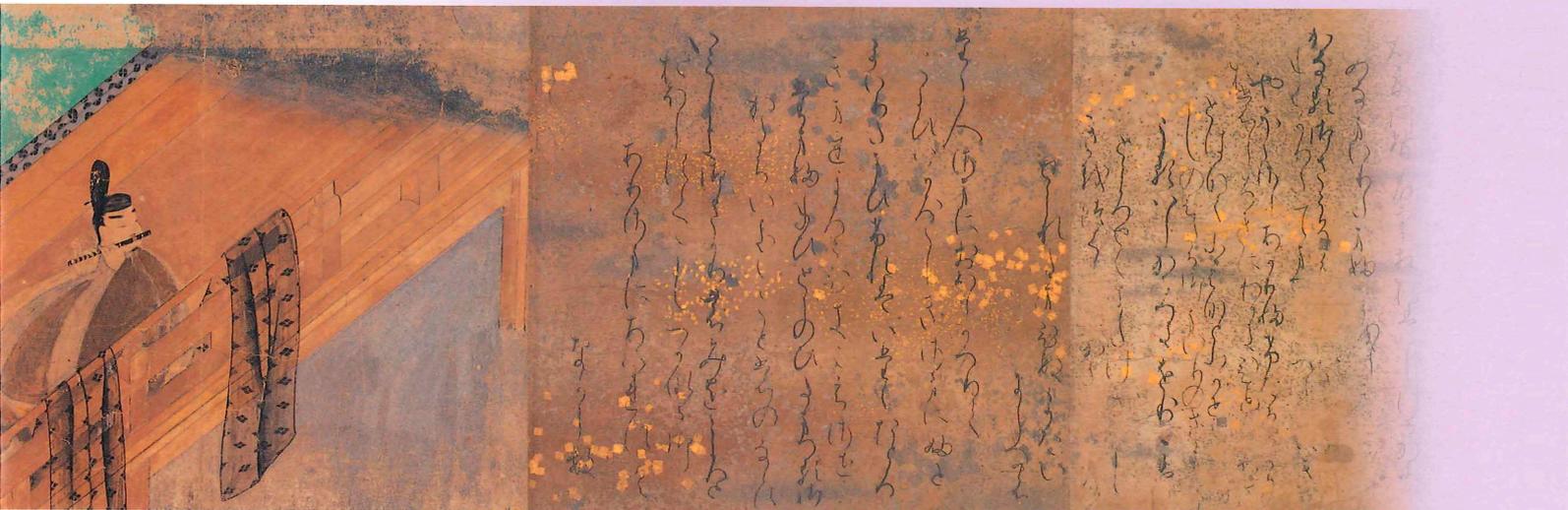
# 源氏物語繪卷

全四卷セツト

紫式部によって『源氏物語』が書かれてから、およそ百年あまり経った十二世紀前半に創作されたのが、国宝『源氏物語繪卷』です。平安時代の王朝貴族文芸の真髓を絵画化した一大傑作として、国内外の識者のあいだに広く知られています。鎌倉時代以来、多数つくられた他の源氏絵と区別するために、一般には「隆能源氏」と呼ばれています。

学者により諸説がありますが、『源氏物語繪卷』には大別して全十巻説と全二十巻説の二つの説があります。いずれにせよ、わずかな断簡をのぞけば、現存する作品としては、繪卷四巻分にはほぼ相当する繪十五面、詞二十八面（以上、徳川美術館蔵）と繪四面、詞九面（以上、五島美術館蔵）があるのみです。それぞれ尾張徳川家、阿波蜂須賀家伝来と歴史的にも由緒正しい経緯で現在の所蔵にいたっております。毎年秋に徳川・五島両美術館で交互に開催される特別展示以外に、原作品を目にすることは容易ではありません。ただし、現在では保存目的から全卷子すべてが巻物装を解き、繪、詞ごとに切断されて額面仕立てに改装されています。

『源氏物語繪卷』の画家（絵師）も当然のことながら複数であり、複数の書家が詞を書いたのではないかと推測されています。古筆や文献資料による論考、X線・紫外線写真による制作技法の調査、コンピュータによる透視解析やグラフィックス、日本画家による原画再現など、これまでに話題に富んだ学術研究や発表がなされてきました。これからも、どのような新発見が出てくるかわかりません。それほどこの繪卷には、現代的関心と興味の源泉が秘められているということでもあります。



第三十八帖 鈴虫

# 絵画について

『源氏物語繪卷』は、宮廷社会に生きる王朝貴族の恋愛物語ですから、全編をとおして上品で典雅な絵画世界の展開がとりわけ重要視され、そこに独自のリアリズムを追求しています。これは数世紀にわたる中国美術の影響をはなれ、わが国特有の風景や人物を表現するのに相応しい様式がすでに樹立していた事実をしめす証といえます。しかし、ただ対象を大和絵風に描くというのではなく、各画面に心理的表現をくわえて男女の複雑な物語に奥行きをあたえ、完成された様式美にまで昇華させているところが驚嘆すべき点です。平安貴族社会の優雅静寂をつたえる「女絵」の技法がここには華やかに開花しています。

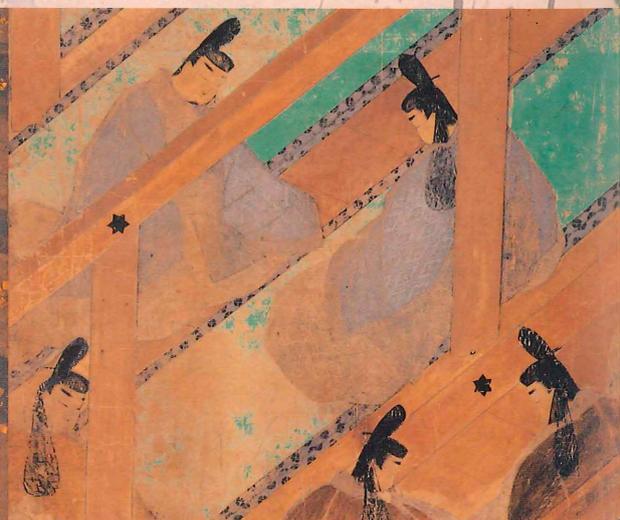
有名な「引目鉤鼻」、「吹抜屋台」、「作り絵」などが『源氏物語繪卷』の代表的技法ですが、それらが巧緻な彩色法や大胆に計算された構図の採用により、登場人物の心理描写、物語の情景配置、鑑賞者の感情移入などと渾然一体となつて、卓越した画面構成となっています。それも古色蒼然としたスタイルではなく、これは近代的絵画表現システムを先取りしたかのよくな、斬新で鮮明な画面が創造されたことに注目すべきです。



第四十四帖 竹河

## 復刻について

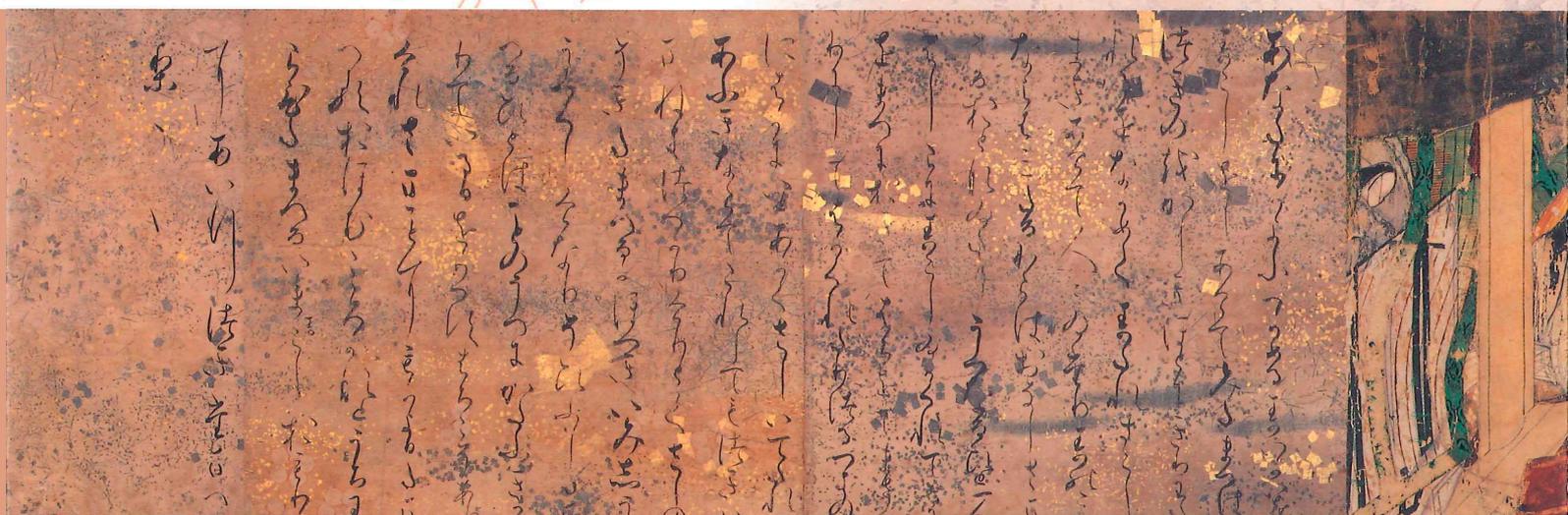
『源氏物語繪卷』は、絵、料紙、書の三要素が、それぞれの美の極致を發揮しながら、みごとな調和を形成しています。平安時代の和風文化がもつ高雅で繊細な感覚が画面の隅々にまでみなぎっています。本来の繪卷というコンパクトな形式に復元することにより、古今東西の美術史上にも類を見ない最高傑作を、時空を超えて多く



# 詞書について

『源氏物語繪卷』においては、他の繪卷に比較しますと、絵にくらべて詞書の占める比率は異例に多く、このことは繪卷自体が詞書にかなりの重点をおいて制作されたものと思われまふ。詞書はすべて料紙に書かれていますが、十一世紀の平安仮名古筆の伝統を踏まえた高貴な書風と料紙の多彩なデザインとの組み合わせが空前絶後の芸術品をつくりだしています。

料紙には最初の段階で文様をつけたり、型紙を貼ったり、下絵を描いたものなどがあり、そこに金銀砂子、野毛、切箔、破り箔などが大胆に、また精緻にまかれ、自然の風景や草花などを象徴的にとらえ、美しい裝飾的形狀を生んでいます。まさに王朝美の謳歌ともいえます。書風は肥瘦・運筆ともに流麗で、「行あけ」、「段落し」、「重ね書き」のテクニクが駆使されており、五種類に分類できるといわれています。複数の書家が絵師に遠慮することなく、絵師とは別々に、それもかなり恣意的に詞書を執筆したものと推測できます。



の人々が鑑賞することが可能となります。

## 今回復刻される『源氏物語繪卷』の内訳

- 第一巻 (二一九 × 八、一七三ミリ)
  - 第十五帖 蓬生 (徳川美術館 一、四一〇ミリ)
  - 第十六帖 関屋 (徳川美術館 九三〇ミリ)
  - 第十七帖 絵合 (徳川美術館 四八八ミリ)
  - 第三十六帖 柏木 (徳川美術館 四、四八六ミリ)
  - 第三十七帖 横笛 (徳川美術館 八五九ミリ)
- 第二巻 (二一八 × 五、三五六ミリ)
  - 第三十八帖 鈴虫 (五島美術館 二、五七九ミリ)
  - 第三十九帖 夕霧 (五島美術館 一、一一六ミリ)
  - 第四十帖 御法 (五島美術館 一、六六一ミリ)
- 第三巻 (二二一 × 四、七二〇ミリ)
  - 第四十四帖 竹河 (徳川美術館 三、五二三ミリ)
  - 第四十五帖 橋姫 (徳川美術館 一、一九七ミリ)
- 第四巻 (二一八 × 五、四二二ミリ)
  - 第四十八帖 早蕨 (徳川美術館 七二三ミリ)
  - 第四十九帖 宿木 (徳川美術館 二、四四四ミリ)
  - 第五十帖 東屋 (徳川美術館 二、二五五ミリ)



# 徳川美術館

The Tokugawa Art Museum

侯爵徳川義親により創立された財団法人徳川黎明会の附属機関として、徳川美術館は昭和10年（1935）に開設。徳川家康の形見分けの愛用品を中心に、初代義直以下、尾張徳川家歴代相伝の重宝・大名道具をはじめ、徳川宗家、紀州徳川家、一橋徳川家などの大大名の売立重宝なども購入し、現在では1万数千件の古美術品を収蔵する美術館として充実した活動をしています。世界的に有名な『源氏物語絵巻』以下の国宝9件、重要文化財53件、重要美術品45件をふくむ豊富な収蔵品は、その質の高さ、保存の良さでも国内外から注目されています。尾張徳川家名古屋別邸の表門がある徳川園、昭和初期の帝冠様式建築を代表し、国の文化財にも登録されている建造物（当時の展示棟と収蔵庫等）、尾張徳川家に伝来の約8万点の蔵書を収蔵する隣接の「蓬左文庫」など、敷地には日本文化の精髓が集結しています。

〒461-0023 愛知県名古屋市東区徳川町1017 電話(052)935-6262



第四十五帖 橋姫



# 五島美術館

The Gotoh Museum

東急電鉄の創始者五島慶太（1882-1959）によって昭和35年（1960）に創立された私立（財団法人）の美術館。戦前から戦後にかけて五島翁が蒐集した日本と東洋の古美術品をもとに、絵画、書跡、茶道具、陶磁器、古鏡、刀剣、文房具など、多岐にわたる約4,000件の収蔵品から構成されています。『源氏物語絵巻』、『紫式部日記絵巻』などの国宝5件、『大燈国師墨蹟』などの重要文化財49件をふくむ数々の名品の宝庫といわれており、それらの収蔵品を紹介する展覧会を年5-6回、特別展を年1-2回開催しています。寝殿造の意匠を随所にとり入れた本館建物は吉田五十八の設計。多摩川をのぞむ武蔵野の雑木林の台地にある敷地は、庭園をふくめ約5,000坪、珠玉の作品を鑑賞するのにふさわしい環境をかもし出しています。

〒158-8510 東京都世田谷区上野毛3丁目9番25号 電話(03)3703-0661



## 仕様・製造

### 仕様

- ・表紙 二重蔓牡丹唐草紋様新緞子
- ・見返し 金砂子
- ・軸木 吉野杉
- ・軸先 なら材梨色塗装
- ・巻緒 正絹組紐 鬱金包裂各巻一枚
- ・桐箱 四巻入り会津桐印籠仕上げ タトウ入

### 解説者略歴

徳川義宣(とくがわ よしのぶ)

昭和八年東京に生まれる。学習院大学政経学部経済学科卒業。東京大学農学部林学科研究生、東京国立博物館研究生を経て、昭和四十二年財団法人徳川黎明会専務理事就任、昭和五十一年徳川美術館館長兼務。愛知学院大学、青山学院女子短期大学、上智大学、学習院大学等で日本美術史・社会史の講師を歴任。平成十二年東海学園大学客員教授に就任。現在、財団法人徳川黎明会会長。  
 主な著書に、「葉月物語絵巻」(木耳社)、「琉球漆工藝」(共著 日本経済新聞社)、「茶壺」(淡交社)、「源氏物語絵巻」(岩崎美術社)、「徳川家康真蹟集」(角川書店)など多数。

企画製作 —— トップラン・フォームズ株式会社

企画協力 —— MBMグループ

刊行 —— 丸善株式会社出版事業部

本体価格 —— 四八二,〇〇〇円(消費税別)

ISBN4-621-04980-1C1371

**M MARUZEN-YUSHODO**

丸善雄松堂株式会社 学術情報ソリューション事業部 開発部 〒160-0002 東京都新宿区四谷坂町10-10  
 Tel: 03-3357-1449 Fax: 03-4335-9419 Email: archives@maruzen.co.jp <http://myrp.maruzen.co.jp/>

お問い合わせ先